「心・生き方」の共感をめざす国語科の学習

ー第５学年　伝記をもとにした読書単元ー

谷　　栄次

１．はじめに

秋の読書週間前後になると，子どもたちの「読書離れ」「活字離れ」が話題となる。テレビ映像に慣れた生活，ゲームに時間を奪われた生活，塾通いなどで自分の時間がもてない生活・・・。本来，子どもたちは読書をすることが好きなはずである。そこで筆者は，読書に対する実態把握を目的にアンケートを行った。(対象：第５学年77名)

●あなたは，一日のうちにどれくらい読書をしますか？

平日（学校のある日）	男	女	計	休日（学校が休みの日）	男	女	計
全く読まない	5	9	14	全く読まない	4	4	8
30分以内	18	12	30	30分以内	10	11	21
30分～１時間以内	12	11	23	30分～１時間以内	11	9	20
１時間～２時間以内	4	3	7	１時間～２時間以内	9	6	15
２時間以上	0	3	3	２時間以上	5	8	13

●あなたは，読書をすることが好きですか？

	男	女	計
大好き	10	15	25
好き	11	18	29
ふつう	16	5	21
嫌い	1	0	1
大嫌い	1	0	1

【好きな理由】
・役に立つ　・勉強になる　・おもしろい　・ひまつぶしになる
・時間を忘れて自分の世界に入ることができる
・本の中の別の世界に入ることができる
・想像するのが楽しい（ワクワクする）
・シリーズものが楽しい

【嫌いな理由】
・めんどくさい　　・長い話が多い

上記の結果や日頃の子どもたちの様子から，個人差はあるが全体的な傾向として，読書が好きで本をよく読んでいると考えられる。こうした実態をふまえて，本稿では読書を通して考えを深めることをめざし，伝記をもとにした読書単元の実践について考察していく。

２．授業仮説の設定と単元構成の工夫

(1)　伝記を教材として扱うことの魅力

伝記を読むおもしろさは，一人の人間の生きた記録を事実として伝えることを通して，どう生きたかを感動的に味わうことができるところにある。苦悩や困難にぶつかりながらも懸命に生きようとする強い心や偉業を成し遂げるまでの生きる姿は，知らず知らずのうちに読者である子どもたちを引き込んでいく。本の世界に描かれた人物を対象化することで，「自分だったら～だろう」「自分には～できない」「これからは～したい」など自分の生き方（ものの見方･考え方）を見つめる機会となる。まさに「自分探究」とも言える。ここに伝記を教材として扱う魅力があると考える。

(2)　授業仮説の設定

伝記を読むおもしろさを生かす学習活動として，本単元ではパネルディスカション形式での読書

会を開くことにした。ことばを手がかりしながら，主人公の生きる姿・生き方に対する自分の思いや考えを発表し合い，広げたり深めたりすることを学習の中核に据えたいと考えたからである。そうした考えをもとに，授業仮説を次のように設定した。

> 自分の読みの成果を発表し合う読書会（人物発表・感想交流）を取り入れるならば，さらに読書に興味をもち，獲得した読む力や読みの方法をこれからの読書活動に役立てることができるであろう。

(3) 単元構成の工夫

本校の研究テーマ「自立に向かう子どもたち」の切り口として「自分で決める場を大切に」をサブテーマに掲げている。本単元では，自分の読みたい本を選択すること，そして個別に（自力で）読み進め，主人公の生き方に対する自分の思いを表現すること，これらはまさに自分で決め，自力で学習を進めることに他ならない。そのために，単元構成を次のように工夫した。

> 一人の人物を取り上げ，学習方法（読みの視点）を身につけることをねらいとした**共通の学習**と，学んだ学習方法を試し生かすことをねらいとした**個別の学習**とで単元を構成する。

次に，単元全体のねらいと具体的な活動をまとめる。

単元　「人間の心・生き方にふれよう－伝記を読むことを通して－」

ねらい
- ○読む力
  - ・人物の行動，気持ち，性格などを想像しながら読む。
  - ・作品の展開に気をつけながら，事実の経過や心情の変化を読む。
- ○書く力
  - ・人物の生き方に対する自分の思いや考えをまとめて書く。
- ○話す力
  - ・叙述を根拠にして，自分の思いや考えを話す。
  - ・自分の読んだ本についてまとめたことをもとにして話す。
- ○聞く力
  - ・自分の思いと比較しながら，人の話を聞く。
  - ・紹介文を聞き，良さや感想など自分の思いを返す。

オリエンテーション　「読書についての座談会を開こう」　2時間

読書傾向を知る。 読書活動に関心・意欲をもつ。	○アンケート結果についての感想交流を行う。 ○伝記とは？その魅力は？について話し合う。 ○学習に対する見通しをもつ。①星野富弘　②読みたい伝記

↓

共通　「人間の心・生き方にふれよう－詩画に生きる星野富弘－」　6時間

人物の心を読み思いを表現する。 読み方について理解する。	○詩画を読んでの感想交流を行う。（毎時間） ○星野富弘の心・生き方について話し合う。 ○一枚文集にまとめ，パネルディスカッションを開く。

↓

個別→共通　「人間の心・生き方にふれよう－自分の選んだ○○○○－」　9時間

伝記の本についてまとめる。 まとめたものを発表し合い，さらに読書に対する意欲をもつ。	○伝記の本を読み，一枚文集にまとめる。 ○パネルディスカッション形式で交流し合う。 （人物の特徴・時代などにより分類し，テーマを決める。） ○学習について振り返る。

3．実際の授業展開

(1) オリエンテーション「読書についての座談会を開こう」

ねらい	○アンケート結果から学級の読書傾向について知り，感想交流を行うことができる。 ○伝記について考え，自分の読みたい本を決めることができる。

本時では，①アンケート結果を見てどう思ったか②伝記とは，どんなものか③伝記を読む魅力はどこにあるかを話し合いの柱として学習を進めた。

①について	・全体的に本を読むのが好き（よく本を読んでいる） ・図書室の本をよく借りている（借りていないという意見も出された） ・女子の方がよく読んでいる ・50冊以上も借りている人がいるなんて驚いた ・本の好きな理由を見て，本に対する思いの深さが感じられる ・めんどくさいというのはわかるけど，読むのは楽しいから読んでほしい ・めんどくさいのは，本をしぼって読むと読みやすくなる
②について	・分厚い本 ・昔のことで名前が有名な人の生活などが書いてある本 ・昔に大発見や大発明をした人について書いてある本
③について	・人が人生の困難を乗り越えるすばらしさが感じられるところ ・発明や発見の喜びが分かるところ ・その人について細かいところ（生活・出来事）までわかるところ ・その人の裏の努力が分かるところ ・その人がいた時代を想像したりできるところ

半数以上の子どもたちが伝記を読んだことがあり，その魅力については様々な考えが出された。

子どもたちの伝記として描かれている人物は，昔の人というとらえであった。そこで，描かれている人物の生き方がわかる本が伝記であるというまとめから，今を生きている人を描いたものであっても伝記とすることを話し「星野富弘」（『かぎりなくやさしい花々』偕成社）を紹介した。

この後，図書室にある本などから自分の読みたい伝記の本を選んだ。休憩時間や放課後など時間を見つけて読む姿も多く見られ，3日間で全部読んだという子どもも数名いた。読むことに気持ちが向いていない子どもには，個別に読んだところまでの感想を聞いたりして言葉かけを行った。

(2) 「人間の心・生き方にふれよう－詩画に生きる星野富弘－」

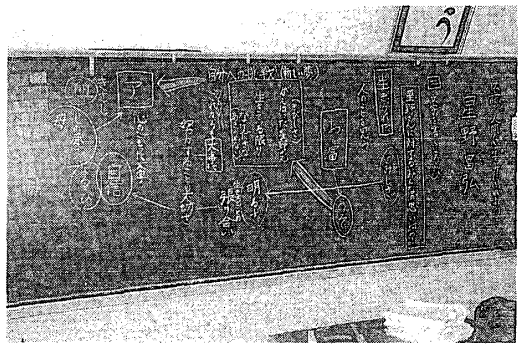
ねらい	○根拠となる言葉に着目して人物の心を読み，自分の思いを表現することができる。 ○読み進める視点を明確にし，書きまとめたものをもとに話し合うことができる。

① 場面ごとの読解活動を通して

日常の読書行為を考え，基本的な学習展開を次のようにした。

学習場面の黙読→人物に対する思いの書き込み→発表→話し合いの焦点化→まとめ

『かぎりなくやさしい花々』の本をもとにして，４つの場面にまとめたものを教材として扱った。「星野さんに対する思いを発表しよう」を課題とし，叙述の言葉を根拠に人物に対しての思いを自由に発言していき，人物の心情をさらに深めていくために，子どもから出された言葉を使って話し合いの焦点化を図った。



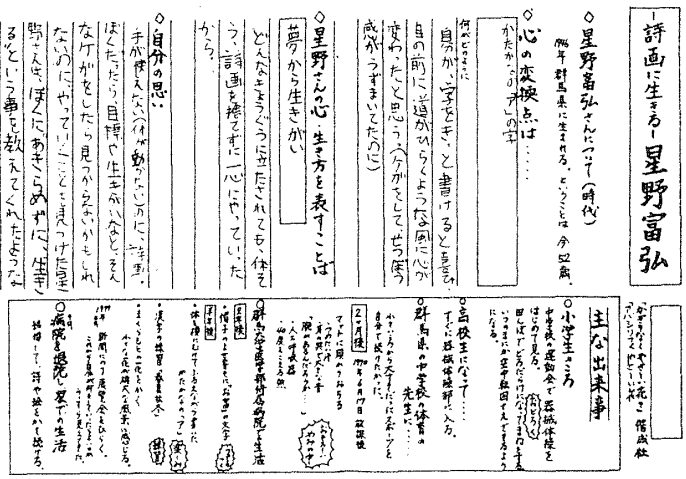
４つの場面と話し合いを焦点化した内容について，まとめると次のようになる。

一場面　器械体操との出逢い	「死にやしないよ」は前向きな気持ち？それとも強がり？
二場面　文字を書く喜び	片仮名の「ア」から学んだことは？
三場面　花を描くこと	花を描く魅力は，いったいどこに？
四場面　退院そして第二の人生を	（ここでは話し合いはしないで，詩画作品を読み合った）

② まとめとしてのパネルディスカッションを通して

星野富弘の生き方のまとめとして，次の４つの視点を示した。

ア　人物の生きた時代・主な出来事
イ　人物の心の変換点
ウ　人物の心・生き方を表す一言
エ　人物に対する自分の思い

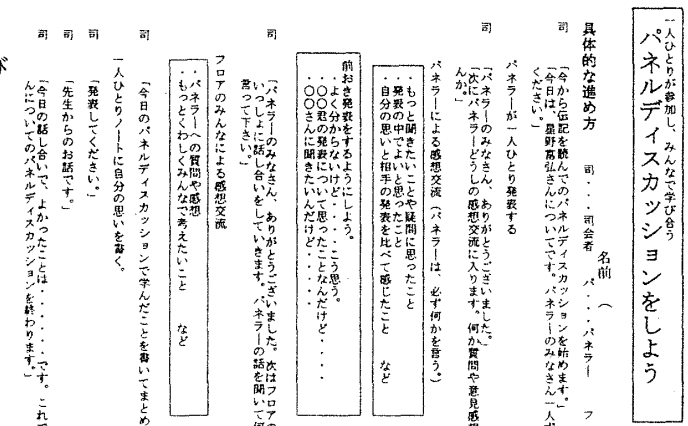


－子どもたちの意見・感想－

イ　心の変換点について
- 「お富」うそをついた時　19名
- 「ア」を初めて書いた時　14名
- 大けがをした時　5名
- 器械体操を初めてした時　1名

ウ　心・生き方を表す一言について
- 小さなことを大きく　・何よりの喜び
- 生きる希望　・うそからまこと
- ありのままに　・夢に向かって
- 花のおかげで　・点滅するランプ
- あきらめないで　・努力　など

エ　自分の思い
- 夢や希望や努力について
（生き方に対する考え）
- 星野さんについて
（人物に対するまとめ）
- もし自分だったら（仮想）
- 星野さんがんばれ（励まし）



パネルディスカッションでは，特にイとエについての話し合いが活発に行われた。

(3) 「人間の心・生き方にふれよう－自分の選んだ○○○○－」

ねらい	○読んだ伝記の本についてまとめたものをもとに，自分の思いを話すことができる。 ○友だちの発表を聞きながら，その良さや感想を話すことができる。

選んだ人物の特徴を考えながらグループ分けをし，パネルディスカッションの計画を立てた。

パネリストは，人物のまとめをそのまま読むのではなく，自分の伝えたい所を明確にし，さらに思いをつけ加えて発表するように指示した。

パネリストやフロアによる感想交流で出された内容をまとめると次のようになる。

○発表の仕方についての評価
○年表の書き表し方や記述についての評価
○難語句やもっと知りたい事実についての質問
○同一人物の事実の違いについての質問
○同一人物の心の変換点の違いについての意見
○心・生き方を表す一言への質問・感想・評価
○人物に対するパネリストの思いについての感想

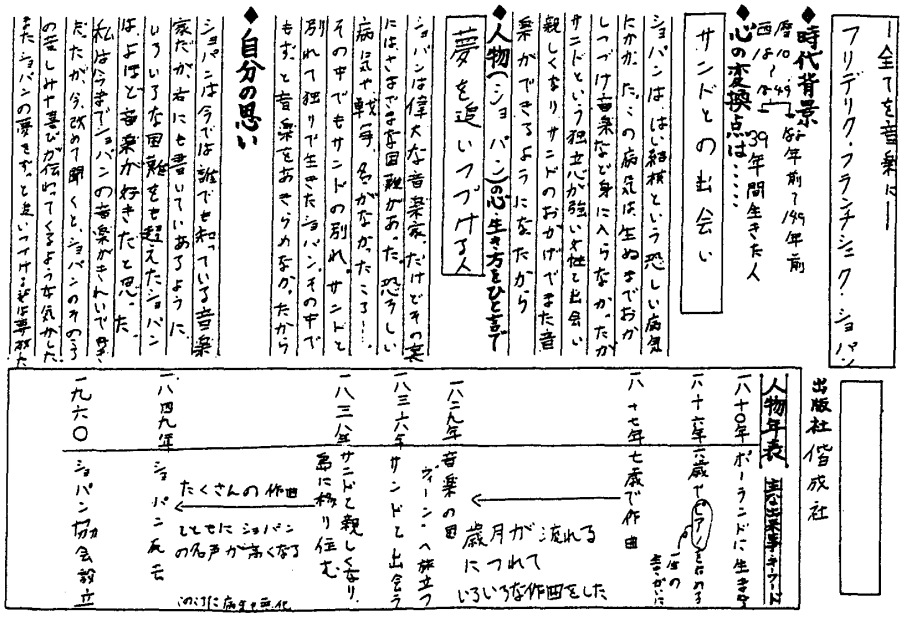
感想交流の中で，さらに深めていきたい話題が出てきたら，そのことについて意見を求めるようにした。

伝記を読んで，人間の心・生き方にふれよう
パネルディスカッションの計画

第1回	テーマ　「芸術に生きる　－音楽－　」 人物名とパネリスト 「シューマン」小坂　「ショパン」西村　「モーツアルト」宮庄・村井
第2回	テーマ　「芸術に生きる　－絵・マンガ・童話－　」 「山下清」天野・竹友　「手塚治虫」櫻井・生川 「宮沢賢治」上田・久保田
第3回	テーマ　「みんなのために生きた人々」 「ナイチンゲール」松尾・中宥　「一休」春田・高野 「マザーテレサ」徳島
第4回	テーマ　「国づくり　－日本と世界の英雄－　」 「坂本龍馬」向山・佐野　「武田信玄」田口　「徳川家康」日置 「劉備玄徳」橋田・谷口　「諸葛孔明」岩崎　「ナポレオン」文野森
第5回	テーマ　「悲劇の中で・・・」 「アンネフランク」小嶋・瀬戸口・白根・檜垣　「ヘレンケラー」安部
第6回	テーマ　「大発見・大発明した人々」 「ライト兄弟」皮間・平野　「エジソン」村田　「ファーブル」松原 「キュリー夫人」高部　「野口英世」山田・藤原
第7回	テーマ　「冒険・野球・勉学に生きた人々」 「植村直巳」中田　「マルコポーロ」久保田　「バーブルース」榎 「福沢諭吉」小林

第2回『芸術に生きる－絵・マンガ・童話－』では，ひとつのことに突き進むことができるのは，何がもとにあるのかについて話し合った。「才能」「努力」「もって生まれた性格みたいなもの」「感じる心」「みんなの言ったと全て」などの意見が出された。

第4回『国づくりのために－日本と世界－』では，「英雄像」について話し合い，「人のために何かをする人」「物事をやり通す強い心をもつ人」「いろんな考えをもつ大きな心の人」などが出された。

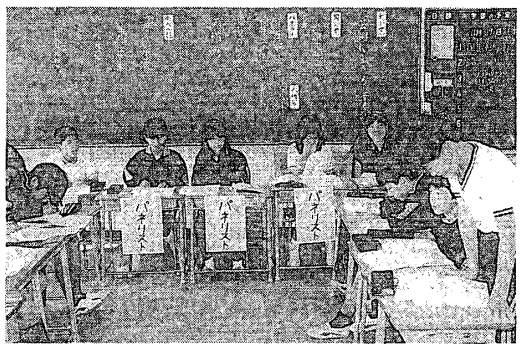


－人物のまとめの例－

第7回「福沢諭吉」の発表者からの「なぜ一万円札に選ばれたのかわからなかった」との疑問に，福沢諭吉の考え方（平等の精神）とお金（人間の価値をも決めかねないもの）についての考えがフロア側から発表された。

4．考察

(1) パネルディスカッション形式の読書会は，どのような効果があったか。



話し合いの目的を田近洵一氏は，「ひとと話し合うのは，新しい情報を知らせ合う（情報交流）ためであり，共に考え合う（共同思考）ためである。自分とは別の見方，別の立場を知り，視野を広げるためである。」と述べている。[1]本を読んでいない人に書かれてある内容や自分の思いを伝えることは，正確さと分かりやすさが要求される。パネルリストとして自分が書きまとめたものをもとに，まとまった話す場が全員に保障されたことの意味は大きい。質問が出たら答えなければならない状況も出てくる。そうした活動は，同時に自分の読みに対する「ふりかえりの場」ともなる。パネルディスカッション形式の読書会は，子どもたちの読みの成果を出し合い，読みの新たな課題を見つける絶好の機会となった。

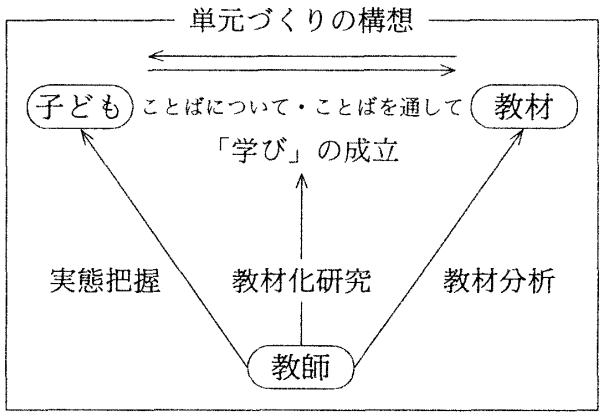
(2) 共通学習が個別学習にどう生かされたか。

子どもたちは，共通学習と個別学習で，違った人物を同じ学習方法で学習したことになる。同じ学習方法を繰り返すことは，学習に対する意欲を失わせることにもなりかねない。しかし，本実践では対象である人物を変えることで，新たな感じ方・考え方をもつことができ，さらに意欲的に活動する姿が見られた。共通学習によって学習方法を理解し，学習に対する見通しをもつことができたことは，自力で学習を進めるにあたって大きな支えになったと考えられる。また，「手があったら肩をもんであげたいという星野さんと体があったら兵士などを看病してあげたいというナイチンゲールは考え方が似ている」など，人物を比較して思いをまとめる子もいた。

自分が選んだ本を読み通す中で，共通学習での読解活動が生かされたかどうかについては疑問が残る。しかし，3(2)の②に挙げた4つの読みの視点にそって自分の選んだ伝記の本について書きまとめたものから，子どもたちが描かれてある人物と向かい合い様々な思いをめぐらせていることがわかる。読み手から本への関わりが積極的になること，このことが読む力をつけることにもなる。

5．おわりに

本実践を通して，子どもの実態を把握しそれを授業に生かすためには，教材分析と教材化研究が大切になってくることを改めて実感した。教材化研究は，教材と子どもたちとの接点の在り方の模索と意味づけと筆者は考えている。教室での学習が教室の枠を飛び越えて「生きてはたらく力」となるためには，特にこの教材化研究が鍵となるであろう。一人ひとりに確かで豊かな「学び」を保障することをめざして，さらに実践を積み重ねていきたい。



引用・参考文献

1）田近洵一著，『国語教育の方法』，国土社，1997，pp. 157-164.

2）田近洵一・井上尚美編，『新訂国語教育指導用語辞典』，教育出版，1992

3）山本名嘉子編著，『国語教育論集II　個を生かす国語科授業の展開と課題』，安田女子大学，1997